

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 3 月 27 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2005～2008
課題番号：17402001
研究課題名（和文）世界遺産ガッラ・プラチディア廟モザイク壁画の保存修復調査と修復技法の実証的研究

研究課題名（英文）The Maintenance, Repairs and Research Conducted on the Mosaics of the Mausoleum of Galla Placidia

研究代表者

工藤 晴也（KUDO HARUYA）
東京藝術大学・美術学部・准教授
研究者番号：90323758

研究成果の概要：5世紀前半に作られた初期キリスト教モザイク壁画の保存状態を調査した。この調査は、修復作業を行うための予備調査である。具体的には、写真撮影、歴史的修復の比較調査、温湿度計による環境調査、材料の科学組成分析、美術史の見地からの考察、水性絵の具による原寸大の現状模写、同質素材によるモザイク再現模写等を行なった。世界的に貴重な文化財を保護することを目的とした日伊共同研究であり、我が国において貴重な多くの研究資料を作成、収集し、修復作業の準備を整えた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	4,300,000		4,300,000
2006年度	2,600,000		2,600,000
2007年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
年度			
総計	9,600,000	810,000	10,410,000

研究分野：壁画

科研費の分科・細目：文化財科学

キーワード：美術史、材質分析、製作技法、保存科学、文化財、国際研究者交流、イタリア

1. 研究開始当初の背景

東京藝術大学及びラヴェンナモザイク修復専門学校は、研究者を相互に派遣し文化財保存・修復における専門的研究を行った。この日伊両国の研究者交流を通して、日伊共同調査を企画し、世界遺産ガッラ・プラチディア廟モザイク壁画を共同研究するに至った。

2. 研究の目的

我が国において初期キリスト教美術研究の機会が少なく、実物に接しながら調査できる貴重な経験であり、西洋美術史萌芽期研究の基礎資料となるものである。また日伊両国の知的資源の共有と人材の育成を目的とする。

3. 研究の方法

各年度 3 回の現地調査を実施し、各項目ごとの調査を行った。現地で収集した試料は、日本の専門機関で科学分析を行なった。模写、モルタル再生実験、資料作成等は主に東京藝術大学壁画研究室で行なった。

4. 研究成果

美術史上ローマからビザンティンへ橋渡の役割を担ったモザイクの重要性を論考した。歴史の異なる修復箇所を分析し特色を論じた。6 点の原寸大現状模写を完成させた。壁の状態と材料の科学組成を詳細に調査分析することにより修復作業の準備を整えた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

工藤 晴也 住 康平

ガッラ・プラチディア廟保存修復調査

(1)

東京藝術大学美術学部紀要 査読有
第 45 号 2007 p57～p92

工藤 晴也

ガッラ・プラチディア廟保存修復調査
(2)

東京藝術大学美術学部紀要 査読有
第 47 号 2009 p1～p34

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

工藤 晴也 (KUDO HARUYA)

東京藝術大学・美術学部・准教授

研究者番号：90323758

(2) 研究分担者

椎葉 聡子 (SHIIBA SATOKO)

東京藝術大学・美術学部・教育研究

助手

研究者番号：40401468

(3) 連携研究者